

中山間地域の在宅医療 ～人と人が支え合って暮らす町～



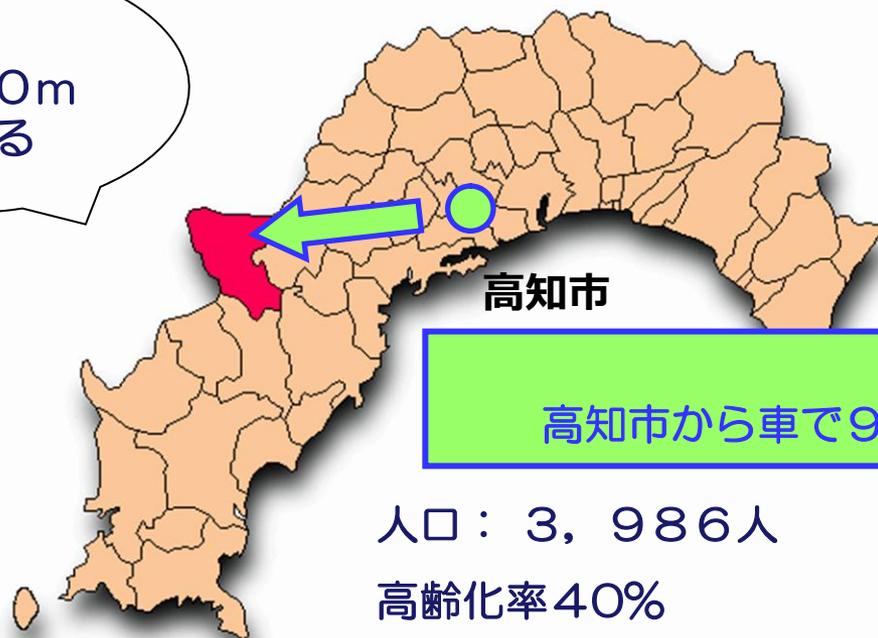
梶原町の概要



面積：23,651ha
(うち 91%が森林)



町中心
標高410m
降雪もある



高知市から車で90分

人口：3,986人

高齢化率40%

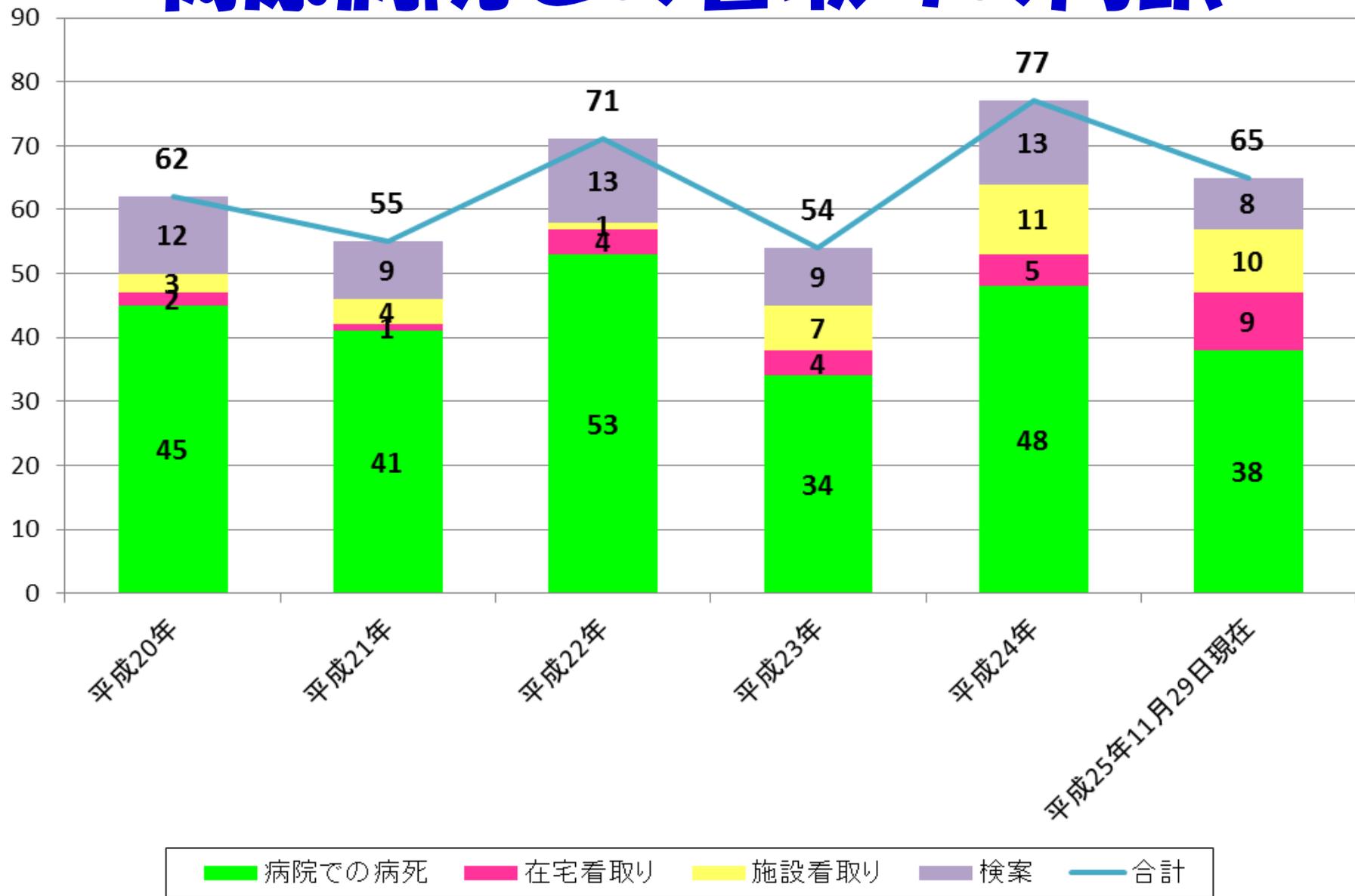
(H22.国勢調査速報値)

高知県の西北部、愛媛県との県境の町。雄大な四国カルスト高原を有する四国山地の山間地帯に属し、四万十川の渓谷と急峻な山々に囲まれた町。

栲原町の保健医療福祉介護サービス



栲原病院での看取いの内訳



梶原で暮らし続けたいと強く
願う町民が多くいる



病気や障害があっても安心して、町内
（自宅や施設、病院）で最期を迎える
仕組み

中山間の小規模自治体で行っている在宅医療

- ①関係者の顔が見えることにより、目的を共有し、お互いに補完しながら隙間のない支援
- ②住民との顔が見える関係づくりと町民自身による暮らしを支える活動への支援
- ③暮らしを支える生活支援や住まい、予防の取り組み

住民を守る絆の体制

保健福祉支援センター

栲原病院



内線1本で診察室や
病棟へ

1 F 保健福祉支援センター
2 F 高齢者生活支援ハウス
3 F デイサービスわだじま

玄関は共通

右半分が 病院 30床

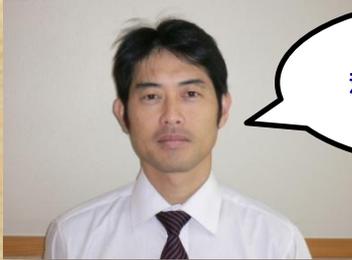


栲原保健福祉センター 組織機構図

保健医療福祉サービスを総合的・一体的に提供

推進体制や方向付けを総括

ゼネラルマネージャー
(兼) 病院長



私がGMです。

センター長

保健福祉支援センター

栲原病院

保健福祉支援センター参事
(兼) 地域包括支援センター所長

事務長



カルスト会居宅介護
支援事業所

健康増進係

福祉係

介護医療係

地域包括支援C

栲原ならではの法人
会社協準備室

四万川診療所

松原診療所

歯科診療所

栲原病院の概要

病床数 30床（一般病床）

診療科 5科

内科・整形外科

眼科・小児科・精神科

（休診）

内科以外は、他院からの派遣

指定 救急告示病院

へき地医療拠点病院

職員数 43人

常勤医師 5人（自治医科大学卒 3人

高知県医療再生機構 1人・高知県 1人）

看護師 21人（産休除く）看護師15人・准看護師4人）

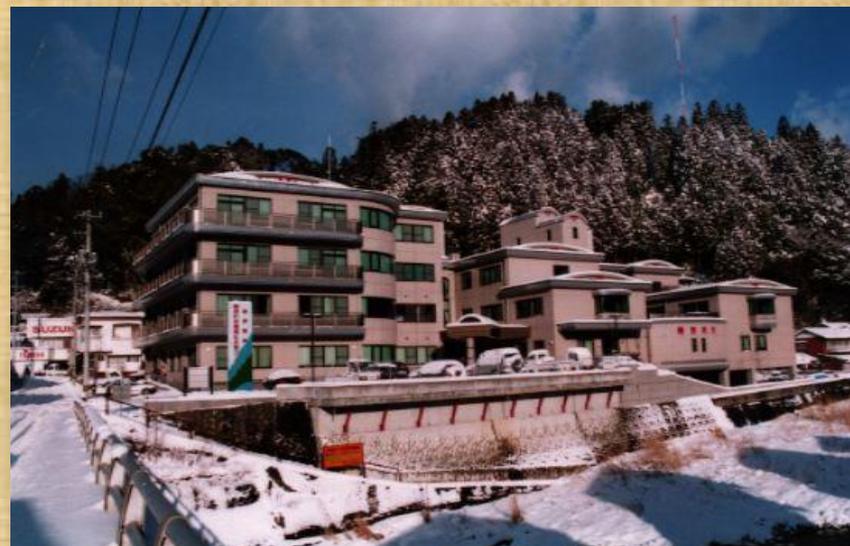
技師 6人（うち1人 保健福祉支援センター兼務）

事務 2人 医療事務は委託

看護補助者4名・臨時職員 5人（看護師・看護補助者）

介護事業所 訪問看護

訪問リハ



町民ひとり一人の安心した暮らしにつなげるために

目的を共有する（目的を達成する要素）

三位一体の目配り



保健・医療・福祉の緊密な連携

◆地域ケア会議（1回/月～）

◆ケアプラン会議（1回/週）

入院患者の方針の確認

退院後の支援

在宅支援の必要なケースの共有

医師・看護師・理学療法士・保健師・ケアマネジャー・介護事業所・福祉担当などが定期的に会を持ち、さまざまな立場から患者の様子や退院後のサービスについて話し合い、それぞれの分野でなすべき事がスムーズに決定される。

保健・医療・福祉・介護サービス間の隙間を少なくし、きめ細かな支援が可能となった

◆地域ケア会議（1回／月～）

平成12年4月1日～

介護保険や障害者支援制度外の
町単独事業等の申請ケースの検討
（条例に規定）



町長へ報告

養護老人ホーム入所判定・生活
支援ハウスの入居・在宅介護家
庭支援金支給に係る申請など

町民のニーズに沿った地域ケア
体制を構築しているため、地域
の課題や施策の検討



町長へ報告

本日のタイムテーブル

- 17:50 構原の今後を考える会
趣旨説明、今後の動向
- 18:00 問題点の提示、KJ法説明
- 18:05 グループディスカッション
- 18:40 グループ発表
- 18:50 まとめ



テーマ(問題点)

(栲原での)自宅生活が困難な、
要支援1～要介護2レベルの人た
ちの問題点はなにか



他職種でkj法を使ったグループワーク

◆ケアプラン会議（1回／）

参加メンバーにとって、参加してよかったと思える会にする

支援の方向性の共有化

- ・ 入院患者の方針 ・ 担当者の確認
- ・ 退院後の支援
- ・ 在宅支援の必要なケースの共有

各職種が役割を果たす

医師－本人の意向、家族の意向を掴む、病状や予後、治療方針などの情報提供・他のメンバーの情報から在宅療養プラン化（マネジメント）

看護師－入院中のADLや本人の思いなどの本人家族の情報提供

保健師－入院前の生活、家族関係、キーパーソン等の情報提供や在宅者の療養上の課題の情報提供・活用できる地域資源や制度紹介

ケアマネ－療養上の課題や退院後のサービスプラン提案

理学療法士－リハのゴールを提示・自宅訪問による、環境面の課題の提示

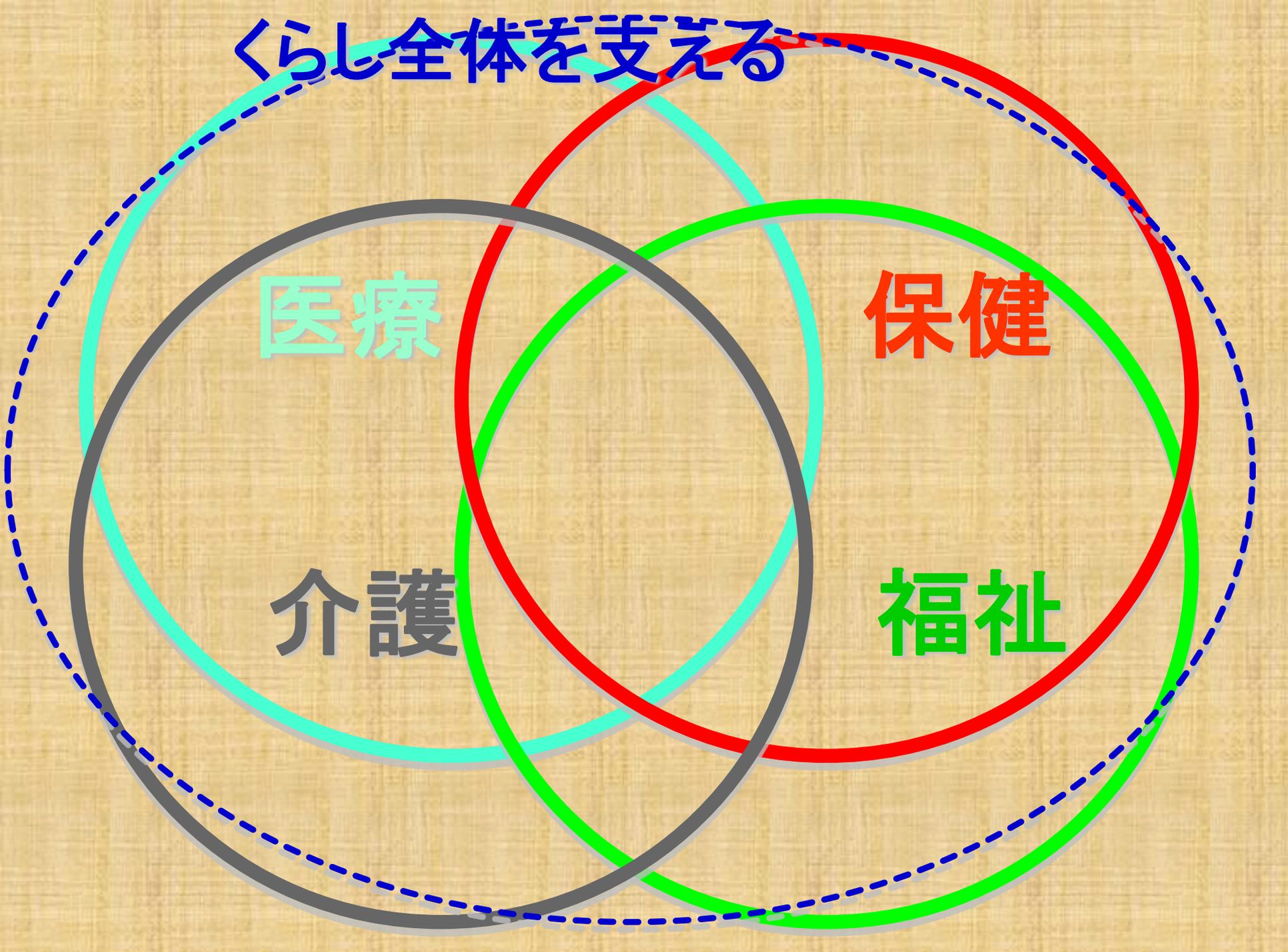
くらし全体を支える

医療

保健

介護

福祉



町民ひとり一人の安心した暮らしにつなげるために

くらしを支える地域の仕組み

◆地域支え合い座談会

◆ 地区別自主防災座談会

◆ 栲原病院座談会（病院に対する住民の意向をしっかりと聞く・病院の現状や取組みを理解してもらう⇒地域医療を共に創り上げていくという住民意識⇒「かかりつけ医」として信頼され、活用される



「太郎さんの選択」
～自宅で死ぬことも選択できる町～



栲原町でよかったと言われるまちにする

安心して集う、泊まる！

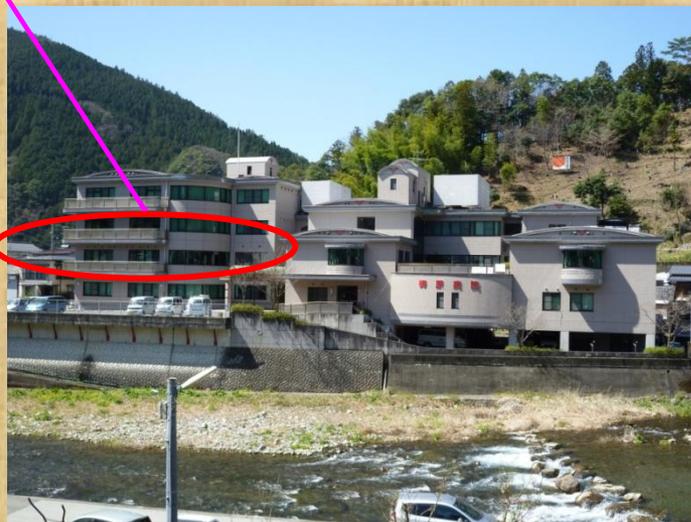
福祉の館

お互いが助け合い、支え合う事を基本に、生活に不安を持つ**高齢者や障害者**が住み慣れた地域に住み続けたいという望みを実現する「**生活の場**」、世代を超え誰もが「**集う場**」として利用できる。

指定管理：福祉の館運営協議会 H22.7.1～



高齢者生活福祉センター



1F	地まさくら 13.12m ²	しゃくなげ 13.12m ²	ささゆり 13.12m ²
2F	箱子 13.12m ²	箱子 13.12m ²	箱子 13.12m ²
地下	廊下	廊下	廊下
3F	かわつし 13.12m ²	とさみすき 13.12m ²	とさしもつけ 13.12m ²

(概二たつ)

予防活動の為の移動手段を確保

◆月に1度は、病院受診を・・・

タクシーチケットの事業化

「雲の上のいきいきチケット」

◆住民による過疎地有償運送開始

「NPO法人 絆」

健康の自己管理と閉じこもり予防



地域通貨を使った支え合い活動

地域通貨【つむぎあい】

高齢者の「住み慣れた地域の中で最後まで暮らし続けたい」という願いを実現していくために、介護保険制度などサービスのみで解決できない小さな困りごとを地域力で解決していこうと、平成19年度に「いきいきふれあい地域活動運営協議会」が主体となり取り組んでいる。

服薬の声かけ・ごみ出し
買い物・布団ほし など

H25 利用会員 8人
協力会員 112人

メンバー：区長・各区のいきいきふれあい広場運営委員会・民生児童委員協議会・老人クラブ・婦人会・よつば会・エプロン会・シルバー介護士・衛生組織連合会・健康文化の里づくり推進員・シルバー人材センター・商工会・カルスト会各代表



地域支えあい活動の地域通貨 『つむぎあい』
梶原町の自治活動母体の6区が協力し合ってすすめているまちづくりを6色の虹で表しました。
1本1本の糸を紡ぎあうように、町民同士が支えあって暮らししていくまちづくりへの思いをこめています。



将来に繋がる人づくり（梶原を支える人材確保）

介護職員初任者研修

従事者の高齢化や担い手不足により、安定したサービスの提供が難しくなっている。

「待っていても人材は来ない、だったら自ら人材を創る」

梶原ならではの仕組み

- ①資格者を増やす為に、町内での受講体制を整える
介護員養成研修事業者の指定（四国部品（株））
- ②受講料を無料化
- ③豊富な地域資源を使う（人・施設）
- ④行政、病院、介護サービス事業所、
梶原高校の協働事業



高校生をターゲット

（夏休みを利用、130時間 集中講義）

高齢者の願い「住み慣れた地域で暮らし続けたい」の実現

在宅生活を支援する独自の事業

在宅生活おうえん事業

介護保険の隙間を埋める事業

(2) 在宅生活おうえんチケット

【補助目的】

在宅で介護をされているご家族をサポートし、介護を必要とする高齢者が少しでも長く在宅生活を続けることができるようにする。

【在宅生活の継続のための訪問介護事業】

【補助対象者】

下記の状態にある高齢者を介護する家族。

1. 要介護3以上の者
2. 要介護2の者（認定情報の認知Ⅲ以上に限る）

【補助の内容】

対象世帯には、在宅生活おうえんチケットを交付し、月5日分までのサービス（デイサービス・ショートステイ）利用分を助成する。

